

せんだい創生 COC プロジェクト  
〔活動報告〕

## 大学と地域の協働連携による世代間交流プロジェクト

プロジェクト代表者：伊藤美由紀<sup>1)</sup>

プロジェクト参加者：菊地 良覺<sup>1)</sup> 中島 敏<sup>1)</sup> 中井 周作<sup>1)</sup> 小嶋 三男<sup>1)</sup>  
須藤 将仁<sup>2)</sup>

大寺 未華<sup>3)</sup> 山内 康加<sup>3)</sup> 澤田 邑耶<sup>3)</sup>

地域安全安心センター所属学生 硬式野球部学生

プロジェクト連携先：八木山地域包括支援センター 所長 松永なおみ

八木山市民センター 館長 並河浩一

仙台八木山防災連絡会（田中礼治会長：東北工業大学名誉教授）

野尻・いぐする会、秋保雪んこまつり実行委員会

雄勝硯生産販売協同組合

### Intergenerational Exchange project in which universities and communities cooperate

#### Abstract

Japan has problems with the declining birth rate and aging population. The Ministry of Health, Labour and Welfare says it is desirable that local residents support each other until they die. The university must make a contribution to society. The university and the local community have implemented a cross-generational exchange project. A resident Exchange event was held in the Yagi-Yama area of Sendai City. We investigated the independence of residents and the consciousness of support. The growth of the students who participated in the community activities was observed.

## 1. はじめに

### 1.1 超高齢化社会の課題と大学の社会貢献

超高齢化が進む現在の日本において、厚生労働省は「地域包括ケアシステム」の実現に向けて、人生の最期まで健康で自律（自立）した自分らしい生活が送れるよう、地域の包

---

1) 東北工業大学 ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科

Department of Life Design for Safety and Amenity, Faculty of Life Design, Tohoku Institute of Technology, Teaching Staff

2) 東北工業大学 長町校舎事務室

Nagamachi Campus an office, Tohoku Institute of Technology

3) 東北工業大学 ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科 平成28年度（平成29年3月）卒業

Department of Life Design for Safety and Amenity, Faculty of Life Design, Tohoku Institute of Technology

括的な支援やサービス提供体制の構築推進を謳っている。高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯がよりいっそう増える将来を考え、「自助」（自分のことは自分です）はもちろん、地域の主体性にに基づき、地域の特性に応じた「互助」（相互に支えあう；住民組織やボランティアなど）も求められている。また文部科学省は、大学は教育と研究を本来の使命としながら、現在は、大学の社会貢献の重要性を強調しており、大学の『第三の使命』であると述べている。

私たちはこれまで、高齢化が進み、丘陵地に住宅を構える八木山地区で仙台八木山防災連絡会の活動等、様々な地域防災活動を行ってきた。その活動を通して災害時など緊急時に身体的精神的な被害を最小限に食い止めるには日常からの取り組み、備えや予防、体制づくりなどが重要であることがわかった。

## 1.2 本プロジェクトの目的

本プロジェクトでは、この成果を基に、本学教職員、学生らが地域住民や地域団体と連携し、住民の主体性や自立性、自助や互助に対する意識の現状を把握し、地域や集団の特性に合った地域住民の交流活動を企画実践する。また参画学生は、地域活動や社会貢献の意義、世代間交流の重要性の理解を深め、社会に寄与する人材になるよう育成することを主目的とした実践的研究活動を目指すことである。

## 2. 大学と地域の連携による世代間交流プロジェクトの内容

### 2.1 プロジェクト全体の概要

本プロジェクトは、各地域や各団体は緊急時（災害時）にも役立つように日常的な交流や支えあい推進活動を検討している。そこに大学の教職員と学生が連携協力し、現状や課題を把握しつつ、住民交流活動の企画実践へとつなげていった。具体的な実践活動は、八木山地域を中心とした「地域包括ケアシステム」を見据えた地域連携活動、子どもを対象とする施設の社会活動、過疎化や被災地といった人口減少などの課題を抱える地域での活動などである。

八木山地域を中心とした地域包括ケアシステムを見据えた地域連携活動や子ども等を対象とした社会活動は、仙台八木山防災連絡会と連携して行い、その中でも特に調査研究は、八木山地域包括支援センター、八木山市民センターと協働で行った。

仙台八木山防災連絡会とは、会長は本学の田中礼治名誉教授が務めており、2008年に宮城県沖地震再来を想定し、災害の備えや災害時の支援を視野に設立された。参加団体は、本学をはじめ、町内会、学校関係、消防関係、警察関係、福祉関係、サービス関係の団体や施設、病院、市民センターなどの43団体（2016年4月現在）であり、「医療関連部会」、「若者部会」、「助けあい部会」、「住みよいまちづくり部会」の4部会から成っている。本学科の菊地良覺や中井周作と伊藤は、幹事と部会の推進担当を務め、中島敏は地域安全安心センターのセンター長として参画している。2016年には、菊地と伊藤が編集デザインした仙台八木山防災連絡会のパンフレットを作成した（図1・図2・図3）。

八木山地域は、この仙台八木山防災連絡会から発生した連携や協力も多く見られる。





図2 仙台八木山防災連絡会 全体会議



図3 医療関連部会の会議

過疎化や被災地といった人口減少などの課題を抱える地域での活動は、秋保地区の野尻・いぐする会、秋保雪んこまつり実行委員会、石巻市雄勝地区の雄勝硯生産販売協同組合などと連携して行った。

これらの地域活動時の学生指導や記録、運営支援には、本学科の小嶋三男、長町校舎事務室の須藤将仁が参画した。

またこれまでの活動を通じて、地域や社会から大学の社会貢献や学生の参画が求められていることも強く感じたため、地域での話し合いや活動に参画しながら、大学や学生に対するニーズや課題などの現状調査も実施した。

## 2.2 八木山地域での「地域包括ケアシステム」を見据えた地域連携活動

八木山地域を中心とした地域活動では、八木山市民センターや八木山地域包括支援センターをはじめ仙台八木山防災連絡会に所属する団体と連携し、高齢者を中心とした地域活動や支援活動の現状や課題を本学科学生の寺大未華、山内康加、澤田邑耶と共に聴取やアンケート調査を行った。それと同時に「地域包括ケアシステム」の啓蒙や推進につながるような活動の企画も行った。具体的な調査内容は、地域活動の参加者（受け手）が主体的運営や運営サポート（担い手）の意識を持っているか、運営サポートを募集時にどの程度活躍してもらえるか、また地域に開かれた施設を目指す団体の現状や課題は何かなどである。またそれらの活動から地域連携につながる可視化ツールの作成も行った。

## 2.3 子どもを対象とする施設等との地域社会活動

子どもを対象とする施設の地域活動や社会活動は、児童館や適応指導教室を中心に行った。子どもを育成する施設の現状や課題を聴取し、ニーズに沿ったイベントを企画実践しながら、子どもを育成する側の視点に立った地域連携や世代間交流のあり方を検討した。

## 2.4 課題を抱える地域での活動

過疎化や被災地といった人口減少や少子高齢化などの課題を抱える地域で、地域活性化や他地域との交流につながるためのイベント企画と実践を現地の方と行い、住民らが地域の危機感を強く持ち積極的に活動する中で、地域連携や世代間交流のあり方を検討した。

## 2.5 活動参画学生と受け入れ側を対象に地域活動における社会貢献や人材育成の調査

「地域包括ケアシステム」を見据えた地域連携活動、子どもを対象とする施設の社会活動、過疎化や被災地といった人口減少などの課題を抱える地域活動などに参画した学生と学生を受け入れた側の地域や団体に対して、大学の地域活動における社会貢献や人材育成についての調査を実施した。

## 3. プロジェクトの実施結果

活動参画学生数の実数は133名（延べ人数は約264名）、教職員の実数は6名であった（2016年4月～2017年3月）。

### 3.1 八木山地域での「地域包括ケアシステム」を見据えた地域連携活動

超高齢化社会をむかえ、その構築が急がれている「地域包括ケアシステム」は、生活者自身や地域住民に自助や互助を求める方策である。八木山地域は、昭和30年代前半から大規模開発された住宅地であり、宅地開発後、同時期に移り住んだ住民の高齢化が地域全体で進行する地域である。2016年現在の八木山連合町内会は、世帯数は約6100世帯、人口は約16000人、高齢化率は30%を超えている（仙台市の高齢化率22.6%：2015年）。

その八木山地域を対象に、八木山市民センターや八木山地域包括支援センター等と連携し、特に高齢者を中心とした地域活動や支援活動の現状や課題を学生と共に聴取やアンケートでの調査を行った。

町内会役員やサークル活動を行う住民等への調査から、集う場所、活動資金、移動手段、運営する側の負担、プライバシー保護、閉鎖的な生活、問題行動のある人との関わりなど、様々な課題を抱えていることがわかった。また八木山地域のイベント参加者に地域活動の担い手としての意識についてアンケート調査を行ったところ、多くが運営を手伝うと回答し、「役に立ちたい」、「楽しそう」、「友人づくり」、「健康のため」、「地域を知りたい」等を理由にあげていた。また伊藤研究室では、2014年から八木山地域包括支援センターと協働で地域住民に消費者被害の防止を呼び掛ける活動を行っている（図4・図5）。具体的な活動の内容として、寸劇で分かりやすく被害に合いそうな状況を演じたのち、要因や対策を解説する講習会を行ってきた。今年度は、消費者被害防止に向けた取り組みに住民が参画できるかを検討し、住民らと意見交換を行った。大学や学生との活動のうち、寸劇等地域で表に出るような活動には消極的であったが、広報活動や情報提供などの協力には賛同を得られた。実際に、シンポジウムや研修会などのイベントの際に学生らとともに啓蒙活動をしていただいたり、悪質なセールスや被害に合わないための対策について話していただいたりした。

地域に開かれた施設を目指す介護施設と連携し、周辺住民参加のイベントを企画した（図6・図7）。周辺住民が施設に訪れ、施設がどのような所かを知り、利用を呼び掛けるために実施した。具体的には、集まった方が季節を感じるために、石や落ち葉を用いた制作活動、旬の素材を用いた食、季節に合った童謡や文部省唱歌を聴いたり歌ったりする活動である。それらの活動を通して、施設は地域に開かれることを目指して情報を発信しているが、施設建物がオープンな雰囲気はなく、施設内でイベントを行ってもわかりにくい。また高齢者や障害を持つ方との接点はまだまだ少なく、地域住民、子どもや若者にも理解をしてもらう機会が必要であると感じた。

そこで、その第一弾として地域連携につながる可視化ツールの作成を検討した。高齢者

を地域が支える問題として多くあげられるものに「認知症」がある。そこで、仙台八木山防災連絡会の医療関連部会で内容を検討し、八木山地域包括支援センターとともに編集を行い、「八木山版 認知症ケアパス」(図8)を学生の大寺未華と山内康加と作成した。



図4 消費者被害防止を呼び掛ける寸劇  
(八木山シニア大学にて)



図5 消費者被害防止を呼び掛ける寸劇  
(八木山市民センターまつりにて)



図6 介護施設での周辺住民参加イベント

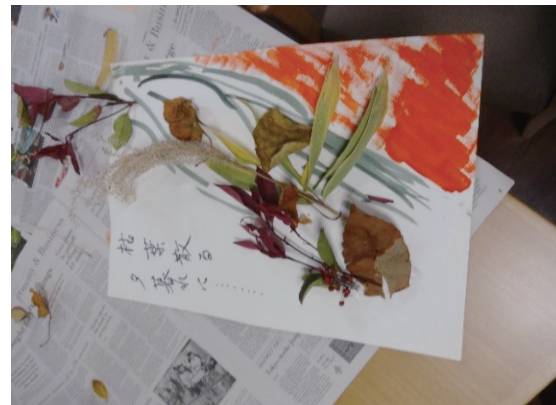


図7 落ち葉を使った装飾づくり

住み慣れた地域で暮らし続ける  
支え愛助け愛のまち

## 八木山版 認知症ケアパス

こんな事が起きていませんか？

- なにをしようとしたっけ
- なにもする気がおきない
- 知らない人がいて恐ろしい！
- たくさんのちようちよが壁に...

☆この冊子の目的☆  
ご自身が…家族が…知人が…  
以前と何か様子が変わってきた時、  
お困りごと・不安を最小限にするため、  
これらの道筋（パス）の方向性・例を  
お示しします

### そのままにしていると…

今度の病院いつたっけ？  
あれあれ  
同じことを繰り返して話す

いつも探し物ばかり  
えっ!!  
気がつくが遅い

私、変なの？  
おすかしいかな…  
だまされやすい

ATM  
すみません

時間や場所がわからない  
人柄が変わる

### 八木山シニアライフ

好きなことを楽しみ続けましょう！  
笑顔が一番です！

#### 自助

サロン活動や老人会に参加しましょう！  
積極的に体を動かすことも大切です。

#### 互助

家族、医療・介護の専門家など頼りになる人達にも手伝ってもらいましょう。  
心強いですよ！

#### 共助・公助

そして、みんなとつながって行きましょう！

#### 見守りのまち・八木山

発行：仙台八木山防災連合会 医療連携部会  
編集：八木山地域包括支援センター  
東北工業大学 伊藤研究室

### きちんと向き合えれば！

今度の病院いつたっけ？  
かかりつけ医、地域包括など誰かと相談→専門医

適切な支援計画  
悪化を防ぐ

周囲との関係を大切に  
上手に見守られる

介護サービスを利用しながら  
自立を維持する

適切な支援  
配食サービスと定期見守り

住み慣れた地域での  
いつもの生活

八木山地域包括支援センター  
桜木町 1-10  
☎229-0811

まずは相談を！

- かかりつけ医

番号	施設名	住所	電話番号
⑨	八木山内科クリニック	八木山本町 1-13-6	724-7501
⑩	ゆきクリニック	八木山本町 1-12-1	229-1118
⑪	八木山すずきクリニック	八木山本町 1-21-17	796-8868
⑫	内科内科医院	松が丘 8-10	229-6868
⑬	大森医院	大塚町 6-1	247-7212
⑭	八木山整形外科クリニック	八木山本町 1-13-6	398-4114
⑮	山田医院	金剛沢 3丁目 14-33	245-5711

- グループホーム

番号	施設名	住所	電話番号
⑯	やぎあん	八木山南 3-1-12	307-5752
⑰	ライブラリ八木山南	八木山南 1-12-6	307-1366

- 特別養護老人ホーム / ショートステイ

番号	施設名	住所	電話番号
⑱	翠風苑	八木山本町 2-42-5	244-6001

- 住宅型有料老人ホーム

番号	施設名	住所	電話番号
⑲	エデンの園	八木山南 1-7-10	307-3361
⑳	ピーコムライフ八木山	八木山南 1-11-17	399-7891

- カフェ / サロン

番号	施設名	住所	電話番号
⑥	八木山サンデーカフェ ※八木山デイサービス		
⑧	八木山つながりの会 ※地域包括 問合せ		
②①	福トレ・カフェ / 移動型パソコン教室 八木山南 1-34-5 パティオ八木山 101	☎297-5697	
②②	やまかせのベンチ / 八木山つどいの家 八木山本町 1-42-2	☎229-0666	
②③	ふれあいラクスカフェ / 希望の星 [マツサツ] 八木山本町 2-24-1	☎228-5060	

- 配食弁当  
ふたばの会 ※地域包括 問合せ

### ●介護サービス・相談

番号	事業所名	住所	電話番号	相談	ケアマネ	デイサービス	ヘルパー	備考
①	アースサポート仙台八木山	八木山東 2-4-14	307-6311	●	●	●	●	
②	セントケア八木山	八木山本町 1-34-3	305-3751	●	●	●	●	
③	八木山介護支援センター (ケアマネ苑)	八木山本町 2-42-5	244-6001	●	●	●	●	
④	仙台赤十字病院 (ケアマネ苑)	八木山本町 2-43-3	243-1111	●	●	●	●	
⑤	こへぶのお家様ヶ丘	大塚町 3-1	304-0623	●	●	●	●	訪問看護
⑥	八木山デイサービスセンター	八木山本町 1-20-3	305-2334	●	●	●	●	
⑦	ここさいむら	いろは 青山 1丁目 30-11	281-8571	●	●	●	●	認知症対応型
⑧	小規模多機能 ここさいむら青山	青山 1丁目 30-11	281-8571	●	●	●	●	泊まり

図8 八木山版 認知症ケアパス

### 3. 2 子どもを対象とする施設等との地域社会活動

子どもを対象とする施設との活動では、児童館や適応指導教室と連携して行った。それらの施設は、健全な遊びや学習の提供だけでなく心身の健康増進と情操を豊かにする教育が求められている。そのためには家庭や地域との連携が必要であり、施設は地域交流や世代間交流活動を求めていることがわかった。特に適応指導教室では、小学校児童や中学校生徒の社会性、地域や他者との関わりを課題としており、本学の学生との実践的な取り組み（ヤギとのふれあいなど）は有効であり、本学長町キャンパスに職場体験を実施するまでに発展した（図9・図10）。



図9 ヤギとのふれあい体験



図10 石巻市雄勝石と使ったものづくり体験

### 3. 3 課題を抱える地域での活動

人口減少や高齢化などの課題を抱え危機感を強く持つ地域で、地域活性化や他地域住民との交流につながるようなイベントの企画と実践を現地の方と行った。具体的には、秋保野尻地域での農業や野草採取、「そばまつり」や「雪まつり」、石巻市雄勝地域での「海産物まつり」や「ホタテまつり」などである（図11－図16）。住民らが積極的に活動する中で、住民や地域の持つ力とイベント開催の能力や労力の課題があった。地域の活性化やそこで暮らす高齢者の自律した生活や生きがいのために、他地域や他世代との交流を求め一方で、地域や住民の力には限度もあり、企画内容の検討や催事時の実践支援も必要であることがわかった。



図11 秋保野尻新そばまつり



図12 秋保野尻雪んこまつり 歓迎雪像づくり





図13 秋保野尻雪んこまつり



図14 農業体験ワークショップ



図15 石巻市雄勝町 海産物まつり（7月）



図16 石巻市雄勝町 ホタテまつり（10月）

### 3. 4 活動参画学生と受け入れ側を対象に地域活動における社会貢献や人材育成の調査

地域活動に参画する学生は、きっかけは授業や他者の誘いであっても、地域や他者への役に立ちたいと考え、責任感や元気や活気を意識して取り組んでいることがわかった。受け入れ側からは、学生の元気や活気、責任感を評価する一方で、さらにアイデアや意見を出すことや知識や技術を活かすこと等もニーズとしてあげていた。また受け入れ側は、学生の活動参画を地域やイベントが活気づくとし、地域やイベントの成功だけでなく、学生自身の成長や他地域や今後を活かすことを望んでいた。今後の課題として、受け入れ側と学生が意見や要望を交わす場、学生が知識や技術を発揮できる場を検討すること、受け入れ側の評価を学生に伝えるなど学生の活動へのモチベーションがあがる方策を検討する必要がある。

## 4. 考察（課題、今後の展開）

今回の活動から、地域世代間交流活動はシニア世代だけでなく、子どもを育成する立場からも求められていることがわかった。また地域活動参加者は、受け手としてだけでなく担い手としても活動する意識は見られた。しかし、活動の目的を達成するためには能力や労力の不足や継続の難しさ等の課題があげられる。大学にはその課題を解決する役割も求められており、今後も今回の調査結果などを活かし、地域の特性やニーズに応じた地域交

流活動につなげたいと考える。

### 謝辞

本プロジェクトを進めるにあたり、八木山地域の皆様、秋保野尻地域の皆様、石巻市雄勝地域の皆様、八木山市民センターや八木山地域包括支援センターをはじめとした仙台八木山防災連絡会の皆様、硬式野球部や安全安心生活デザイン学科などの学生の皆様、多くの方々にご理解とご協力をいただきました。

参画して頂いた多くの方々に対し、心から感謝を申し上げます。

### 参考引用文献

1. 文部科学省ホームページ：<http://www.mext.go.jp/>
2. 木村佐枝子 大学と社会貢献 学生ボランティア活動の教育的意義 創元社 2014年12月10日
3. 地域包括ケアシステムについて 厚生労働省老健局 2014.6
4. 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議編集 MIYAGI まちづくりと地域支え合い 特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター (CLC)  
[http://www.clc-japan.com/sasaeai\\_m/index.html](http://www.clc-japan.com/sasaeai_m/index.html)
5. 伊藤美由紀 菊地良覺 松永なおみ 樋口洋 震災時の健康維持のための新たな教育プログラム開発プロジェクト 東北工業大学新技術創造研究センター紀要EOS Vol.26 No.1 p.75-80 2014.2
6. 伊藤美由紀 菊地良覺 松永なおみ 並河浩一 地域で取り組む非日常時（震災時）の健康維持に関するプロジェクト 東北工業大学地域連携センター紀要EOS Vol.27 No.1 p.9-20 2015.3
7. 伊藤美由紀 菊地良覺 中島敏 小嶋三男 松永なおみ 並河浩一 杉澤修 地域防災減災支援プロジェクト 東北工業大学地域連携センター紀要EOS Vol.28 No.1 p.89-98 2015